

◆ 映 画 人間の世界 (分裂病に抗して)

忌まわしい精神病患者といえども、人間らしい生活に復帰する権利がある。そして現代では精神病は不治の病ではない。かつては狂人として病院に送れば事足りた時代があつた。人間性を全く無視した牢獄のような監禁室とむごい電気ショック療法。そのような時代は去つて、新しい抗精神薬による治療と、作業やリクリエーションによる治療が開始されるようになった。言わば、閉鎖の病院から開放の病院へと、精神病の治療が一変したのである。

最も多いのが精神分裂病。画面には先ず様々な病態の患者が登場する。彼等の「心」は麻痺している。単純な動作の繰り返しや意味のわからぬ独語……彼等は生きてはいない。彼等は単なる「影」にすぎない。

画面が明るくなつた。「母さんの歌」の合唱が流れてきた。軽快した患者の作業療法のシーンである。リクリエーションの場面も出てくる。孤立から共同生活に入つた彼等には、人間同士の付き合いが復活し、失われていた心の触れ合いが戻ってくる。医師の最も大切な仕事は、医師と患者が人間的に接することである。

分裂病は20才前後に発病し、100人に1人の割合で多く出現する。ある大学の教養学部2年の女子学生が分裂病になつた。映画はしばらく彼女の闘病記録に焦点が合わされる。強力な薬物療法にもかかわらず、病状は次第に悪化してゆく。眼は狂人らしく鋭くなり、食物も拒み、屢々死の観念にとらわれた。この苦しみが3ヵ月余も続いた。彼女を治すべく、看護者の働きかけはしつように続けられた。薬をのませ、食事を口許まで運んでやる。絵をかかせてみたり、卓球に誘つてみたり……。かくて4ヵ月後に漸く、そして突然のように彼女に朝がやつて来たのである。以前のぎごちなさ、かたくなさがなくなり、不自然な表情も消えた。歌声がきかれるようになり、身体に生気が甦り、苦しみは全く去つた。観ていた我々には驚異的な変りようであつた。そしてホツとした。「命の洗濯みたいだつた」と彼女は述懐する。

退院患者がまとまつて働いている職場が紹介される。彼等は生の社会に適応出来る力をつけなければならぬ。薬は続けている。「世間を頼りにするのは無理、自分で解決しなければ」と彼等は語る。社会との中間施設さえあれば病院を離れ得る人は多い。彼等の治癒と社会復帰を阻むもの、それは現在の医療制度と社会である。このことを医師として、看護者として、否私達すべてが同じ人間として、あらためて自らに問わなければいけないのではないか。

◆ 次 回 (6月18日) のプログラム

会員卓話 ◦ 肝油の漫談 ◦ 青柳喜一君



専才108号
1965-1966-5-11
函館北ロータリークラブ

第97回例会

例会場 明治生命館
例会日 毎週水曜日
12.30~13.30

本日のプログラム

会員卓話 ◦ 肝油の漫談 ◦ 青柳喜一君

- ◆ 司 会 遠藤会長
- ◆ 斉 唱 手に手つないで
- ◆ ビジター 渡辺亀三郎君他9名 (函館R.C.)
新谷武四郎君他9名 (函館東R.C.)
- ◆ 会長挨拶
 - 1 桜の季節となりました。「声よくば歌わんものを桜散る——」の句が思い出されます。5月11日は函館では、大正2年に才1回護国神社祭、昭和33年に才1回花まつりが行なわれています。
 - 2 太奏先生から「工業高専早わかり」のプリントをいただきました。才1回卒業生をいよいよ明春送り出すことになりましたので、「函館工業高専」につきよく御理解いただくと共に、優秀な学生ぞろいですので、卒業生の採用につき特段の御関心、御協力をお願いする次第です。
- ◆ 幹事報告
 - 1 フォーラムにつき協議致したいので、例会後全員お残り願ひます。
 - 2 前回にもお願いしてありましたが、新年度に住所、電話番号等の変更になる方はお届け下さい。本日で締め切ります。
 - 3 350地区協議会 北見、北見東R.C.をホストとして、6月26日に北見藤学園で行なわれます。
 - 4 358地区年次大会 11月16日に東京で行なわれます。
- ◆ 会員卓話 ◦ カラーテレビについて ◦ 高杉重雄君

カラーテレビは昭和15、6年頃からアメリカで大々的に研究され、CBS方式(フィールド順次方式)が実験の中心でした。24年頃にはアメリカで白黒テレビが急速に発達し、放送局数107、受像機台数1050万に達し、カラーテレビは白黒テレビと両立する方式以外考えられなくなりました。26年にCBS方式が認可になり商業放送を開始しましたが、メーカー側と他の研究

グループの反対にあり、朝鮮動乱もあつて、3カ月中止となつています。一方その頃から現在のNTSC方式の研究がなされ、28年に全規格が完成し、FCCにより許可され、翌年から正式にカラーテレビの放送が行なわれました。日本では35年9月1日からです。

放送される電波の構造は、白黒の場合は6メガサイクルの幅の中に絵と音の信号を入れています。カラーの場合は赤緑青の信号を必要とするので、3倍の18メガサイクルを必要とします。カラー電波の搬送波をぬき、白黒電波と一緒に乗せて送るわけです。カラー信号は、赤マイナス白と青マイナス白の二つの信号を一つにして送ります。電波が簡単になると受像機が複雑になります。白黒電波の中からカラー信号をぬき出し、これを赤マイナス白と青マイナス白の信号に復元し、二つの信号を51:19%の割合で加えると緑マイナス白の信号が出来ます。これら三つの信号を与えると、ブラウン管にはプラス白の信号がかけてあるので、赤緑青の色が再現されるのです。

ブラウン管には内面にシヤドウマスクと言う26~30万個の穴のあいた鉄板が入れてあります。管面は写真の技術によつてこのマスクを利用し、赤緑青の点を焼き付けます。これはオートメで製造は出来ません。又出来たものはテストの段階で75%程はねられます。これがカラーテレビの値段を高くしている原因で、又テレビの半分の値段がブラウン管なのです。ブラウン管にはこの他にクロマトロン管があります。これは縦に細い線が沢山並べられ、それに電圧がかかつて色を振り分けるもので、明るいのが特徴です。

カラーテレビは三つの調整をします。ホワイトバランス(白度合)調整、ユーリテイ(色むら)調整、コンバーゼンス(色ずれ)調整です。このうち色ずれの調整は信号機を用い、点信号により中心部のずれを、格子縞信号により周辺部のずれを調整するのです。明るさは7割程度にし、カラーは濃すぎないよう、色調は人間の肌色に合わせることも大切です。又室内の電灯を暗くしてご覧になれば、16ミリ映画よりも良く見られます。

現在函館でもNHKがカラー放送をしています。民放はまだ正式に放送していませんが、STVが90%、HBCが50%見られるようです。将来ブラウン管が安くなればカラーテレビの価格も安くなるでしょう。そしてその先のテレビは、恐らく、ステレオテレビが開発されると思います。

◆ 出席報告

1. 本日 会員数31名 出席26名
2. 前回の確定出席率 77.42% (出席23名、メークアップ1名)
3. 4月の平均出席率 83.87%

参考: 函館RC 93.40% 函館東RC 92.39%



通算才115号

1965~1966-5-18

函館北ロータリークラブ

第98回例会

例会場 明治生命館

例会日 毎週水曜日

12.30~13.30

本日のプログラム

最近の交通事故に就て、 中央署 野戸谷交通課長

- ◆ 司 会 遠藤会長
- ◆ 斉 唱 奉仕の理想
- ◆ ビジター 原 忠雄君他11名(函館RC)
山口敬三君他12名(函館東RC)

◆ 会長挨拶

今日は当クラブ初めての軽食を用意致しました。クラブの財政上御寛容の程をお願い致します。

◆ 会員卓話

◆ 肝油漫談 ◆

青柳喜一君

肝油が薬用に供せられて以来180年余りの歴史を有し、19世紀の半ばには滋養強壯剤として特にクル病・結核に卓効があることが知られ広く普及した。しかしその薬効の本態が明らかになつたのは比較的新しく、大正3年にビタミンA、大正8年にビタミンDが、いずれも肝油から発見された。それらのビタミンの研究が盛んになつたのは昭和の初めころのことである。すなわち当時まで信じられていた肝油の薬効が、その含有するヨードに基づくとか、油自体の栄養価が良好であるためであるとかいう考え方は否定され、肝油が有効であるのはその含有するビタミンAとDに基づくものであることが明確にされたのである。従つて肝油服用の目標は当然ビタミンA・Dに置かなければならない。

昭和の初めころまで肝油といえばマグロの肝臓から採つた油で、ノールウェイ・ニューファンドランド・樺太・北海道で生産されていた。河合研究所では昭和3年から日本産肝油のビタミンに関する研究に着手し、肝油のビタミン含量と魚の種類、年令、産地、時期等との間に一定の関係があることを明らかにし、原料の選択により従来見られなかつたビタミン濃度の高い肝油の製造ができるようになった。次いで各種魚類の肝油の研究が進められ、次々とビタミン資源として優秀な魚類が発見された。

これらビタミンA、D含量の多い肝臓は、従来行なわれていた水蒸気法によつては採油できないので、河合研究所では肝油製造法の研究を行ない、昭和7